

### カンボジア総選挙

# 不正国際批判は必至

## 無効票相当数、脅迫も

【バンコク＝北川成史】カンボジア総選挙（下院選・定数一二五）は与党人民党の全議席独占の可能性が高まっているが、無効票も相当の割合を占めそうだ。フン・セン政権が棄権者への制裁をちらつかせた結果、与党に投票せざるを得ない有権者が少なくなかった実態が浮かぶ。公正な選挙で信任を得たとアピールしたい政権側に対し、国際社会の批判が高まるのは必至だ。

## 野党「勝利に中身ない」

投票用紙に大きく書かれた「X」印や解党処分になった最大野党カンボジア救国党の略称「CNRP」。

二十九日、首都プノンペンの開票所を視察した藤田幸久参院議員（国民民主）は多くの無効票を目にした。藤田氏によると、開票所には全体の二割が無

効票として積み上がっていたという。

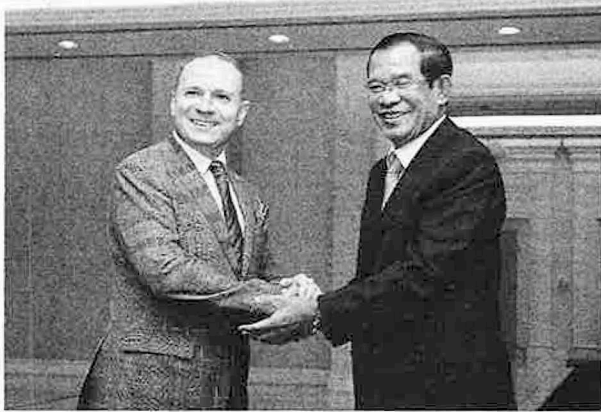
投票率向上に躍起だったフン・セン政権は「選挙に反対する人間は許されない」として、棄権者に罰金を科すなどの法的措置をおわせていた。東南アジア諸国連合（ASEAN）人権議員連盟は二十七日の

明で「人民党に投票しないと公的サービスが受けられなくなる」と住民が脅された事例などを挙げている。

二重投票を防ぐためとして、投票者の指にインキを付ける制度も有権者への圧力になったとみられる。

与党と有権者の人気を二分する救国党が不在の中、投票率が急上昇するのは考えにくく、欧州に避難している救国党のサム・レンシ元党首は二十九日、「勝利に中身はない。国民は本当の選択ができなかった」と不当性を訴えた。

選挙支援を取りやめた欧米諸国を中心に、今後、国際社会の目が厳しくなるのは避けられそうにない。米



㊦30日、プノンペンで、カンボジア下院選の監視関係者と握手するフン・セン首相㊦＝A P・共同  
㊧29日、プノンペンで、開票作業を進める選挙管理委員会＝A F P・時事



ホワイトハウスのサンダーズ報道官は二十九日、「欠陥のある選挙で、民主主義の大きな後退だ」と非難する声明を出し、昨年九月に拘束された救国党のケム・ソカ党首らの即時釈放を求めた。フン・セン首相は経済圏構想「一帯一路」の実現を目指して投資を続ける中国を後ろ盾とする考えだが、国内で強権姿勢を続けられ、その他の国からの支援停止や制裁の代償を受けかねない状況だ。